様式第１号（第１０条関係）

2024 年度業務実績報告書

提出日　　2025 年　1 月　16 日

１．職名・氏名　教授　亀田 勝見

２．学位　文学博士　、専門分野　中国思想史　、
授与機関　京都大学文学部　、授与年月　1999 年 3 月

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①　中国語Ⅰ・II（各 1 単位［週 2 コマ］、毎年開講）　1 年生
②　内容・ねらい（自由記述） 初修外国語として中国語の入門を身につけさせる。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 多人数相手ではおろそかになりがちな発音能力の向上と、期末テストまで復習をする意志の低い学生に復習の習慣づけることを目的として、以下工夫を行った。 使用する教科書に対応した Web ページを自作。クリック一つで音声を確かめることのできる教材として、授業時間の内外を問わず利用できるようにしている。 毎年授業を LL 教室で行う。②の教材を授業中必要な時にいつでも利用できる環境を提供。後期の「中国語Ⅱ」からは、ピンインから簡体字変換するシステムに依存せねばならないパソコン入力の特質を生かし、練習問題の一部をパソコン入力で提出されることを実施した。これにより、発音の基礎であるピンインの学習をおろそかにすることで発音が身につかない学生の能力向上を目指した。併せて F レックス LMS を活用し、学生との密なる連絡や電子教材の提供の便に供した。 昨年度と同様、今年度も後期からスタートする「中国語Ⅰ」を実施した。年度途中から初修外国語を始められる授業を設けることで、単位取得が思うようにいっていない学生が英語以外の選択肢を持つことができるようにすることが主目的である。
①　導入ゼミ（1 単位、毎年開講）　1 年生
②　内容・ねらい 教員の専門である東洋の分野を題材として、大学に入学したばかりの一年生に、大学での資料収集・作成や発表などの基本ルールを身につけさせる。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 授業の序盤では、大学に入って間もない学生のために、大学での学習のしくみや心構え、時間割を埋める作業の補助を行う。これと並行して、教員との連絡の取り方や日本語能力などの基礎スキル養成を実施する。その際、グループを作成しグループ間で作業内容の正否を討論させた上で正誤のチェックを行った。 中盤では、日本語スキル向上の継続を中心に、グループワークで不適当な表現や誤った文章作りなどを自己解決していく面を重視して指導を行った。 終盤では、あらかじめ個々の学生に選ばせていたテーマ発表の準備を行わせた。これと並行して、レポートの書き方やプレゼンテーションの基礎についても、以前と同様グループワークによる解決を中心として指導した。最終発表では、ここまでに指導した内容を踏まえて資料を伴う口頭発表を行わせ、学生からの質疑応答へと進めた。
①　学術ゼミ（前期、2 単位、毎年開講）
②　内容・ねらい 中国文化の中で大きな存在である民間信仰・宗教の理解を深める。その手段として、文献による学習はもちろん、現地に赴いて文物および信仰を支える人々の実際を見聞させる。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫

2015 年度より海外実地研修を織り込んだ授業として授業を組み立てている。コロナ禍で 2 年ほど中断していたが、2023 年度より海外実習を復活し、今年度も 3 名の日本人学生を帯同して台湾中部・北部へ赴いた。

中国古代文化、とりわけ道教や民間信仰について現地学習を行うため、その準備として唐以前の漢文古典資料に訓点を施した教材を利用し訳注を作成させた。その入口として、それら漢文資料を利用した漫画も教材に活用している。

実地研修では、台湾の台北・基隆にある民間信仰の各種寺廟をめぐるとともに、故宮博物院の参観も行った。本物の文物と信仰の実際を体験することで中国文化全般の理解を深めた。

帰国後はこれらの結果を成果報告書としてまとめ、Web サービスを用いた写真付きの書籍として完成させる作業を後期に行わせ、その成果を確認して単位認定している。

授業には台湾や中国からの留学生も参加しており、彼らは海外研修の対象者ではない。そのため、彼らには授業内での発表という形式で、海外研修を行う日本人学生への情報提供やアドバイスをしてもらった。加えて、帰国後の報告書作成義務も彼らにはないため、その分古典漢文資料の読解作業を多めに担当してもらった。

①　教養特講Ⅰ（研究の世界）（2 単位、毎年開講）

②　内容・ねらい

全学教育を担当する学教センターの教員が毎回交代で登壇し、それぞれの研究世界の魅力をわかりやすく紹介する。各教員の担当は 1 回のみ。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫

担当回のタイトルは「“天道は是か否か？”―運命と向き合う古代中国人」。古代中国に発生した「天」の観念から導かれる、人の行為の持つ意味について、「応報論」「命定論」という対立軸に基づいて解説する。古代から連綿と続き変化発展を続ける儒教、後漢以後、爆発的に流行した仏教および道教など、様々な立場からの「教え」を紹介した上で、現代日本に生きる学生個々が自らの行為と将来との関係をどのように捉えているかを考えてもらうことで授業を締めくくる。なお、授業の途中には現代中国の流行歌 MV を鑑賞し、そこに見える男女の悲劇を運命との関わりでどう捉えるか、分析してもらうことも課題に加えた。

(2)その他の教育活動

公開講座「日本の文化と社会」（全 6 回）
担当：第 2 回（8/7）。
タイトル：中国思想史から：「不老不死」の昔と今

古今東西に散見する「長寿」「不老」「不死」への憧れと渇望について、古代東アジアの歴史的展開を一般人向けに語る。専門が中国思想史なので、古代中国に発生した「仙人」の概念および道教における不老不死獲得の術を紹介するのはもちろん、古代日本、特に福井県小浜市に伝承のある八百比丘尼伝説や『竹取物語』などのエピソードをも取り上げた。

最後に、現代にはびこる「不死願望悪玉説」を取り上げ、昨今はやっているサブカルチャーをその題材に用いた。多くの現代人が無意識にとらわれているこの考え方を意識してもらうことを通じ、「自分に都合のよい“多様性尊重”」になっていないか、自省してもらうことを結論とした。

４．研究業績

(1)研究業績の公表

①　著書
【　０本】

②　学術論文（査読あり）
【　０本】

③　その他論文（査読なし）
【　０本】

④　学会発表等 【　０件】
⑤　その他の公表実績 【　０本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績
なし。研究を進める上で外部資金まで必要としないため、応募していない。
(3)特許等取得
(4)学会活動等
・日本道教学会理事　2022 年度～ ・『王勃集』読書会（宇佐美文理代表） 訳注作成を主目的としており、一定の範囲を終了させた段階で成果報告を出す予定 年度内に１回程度、訳注案作成を担当した。2021 年度から新型コロナ関連で休会中。 ・「道教思想研究会」読書会（金志玹代表） 訳注作成を主目的としており、一定の範囲を終了させた段階で成果報告を出す予定 １年に１回程度、訳注案作成を担当する。オンライン会議で月１回開催。

５．地域・社会貢献

・福井県漢詩人協会会長の川口義夫氏が手掛ける、松平春嶽の漢詩集訳注作成と出版に向けた作業の協力。長年にわたり川口氏が作成してきた福井県ゆかりの春嶽公詩集の訳注について、亀田からは漢文の専門家という立場から複数年にわたる助言・訂正を行っている。漢文解釈や語注・解説などの一次検討を終え、昨年度からは書籍化に向けた作業に入った。今年度は二次検討の段階に入り、出版書式に改めた上で再度内容の是非を検討中。データの入力および校正のため、アルバイトも雇ってデータの入力とチェックを行っているが、今年度中にはその作業を終える予定。今後は内容の三次検討も行いつつ、出版に直結した編集作業を中心に行う。
・本学のサークル「fpu 太極拳サークル」を主催。 サークル顧問であるとともに、学内外の学生・教員・留学生および一般人を広く招き、太極拳を指導。所属学生が小浜キャンパスに移ったため、従来の週 2 回活動が 1 回に減少し、本学に出講していただいている非常勤講師との間の社会人サークルという形で継続中。

６．大学運営への参画

(1) 補職
・学術教養センター センター長補佐
(2)委員会・チーム活動
・時間割・共通科目検討協議会メンバー ・入試制度検討委員会委員
(3)学内行事への参加
(4)その他、自発的活動など
・教務カリキュラム委員会（部局内活動） ・英語以外の外国語を担当する教員（自分以外は非常勤講師）の取りまとめ役